

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人ゆうゆう amaririsu			
○保護者評価実施期間	2026年 1月 4日		～	2026年 1月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33世帯	(回答者数)	20世帯
○従業者評価実施期間	2026年 1月 4日		～	2026年 2月 4日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 28日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
	毎年虐待防止、権利擁護に関する研修を行い、権利侵害の防止や発生時の対応等について職員の理解を深めている。	利用者との関わり方や支援方法などについての研修を行い、学ぶ機会を作っている。	内部だけではなく、外部の研修にも参加しやすい勤務体制を作っている。
	毎日のサービス提供後にその日のスタッフ全員で振り返りを行っていること。	その日の出来事で、利用者の良かったこと成長したことや関わりで困ったことを話し、職員間で情報共有したり助言や改善策を話し合いをしたりしている。	振り返りだけではなく、現在は常勤職員のみで行っているケース検討会を非常勤職員にも参加機会を提供し、利用者の理解をより深めていく場を設ける。
	地域の方と交流が持てるよう、地域のイベントに参加したり地域の方に来てもらい一緒に活動をする機会を設けている。	・当別町、法人の資源を活用したイベントの実施(田植え、森イベント、町内の各種祭りへの参加等) ・アマリリスでのイベントに地域の方に参加してもらう。	・利用者のニーズを細かく把握しながらイベントの内容を検討する。 ・イベント時に利用できる地域の資源を探す。
	保護者同士の交流の機会をつくっていること。	保護者交流会を企画することで、進学や仕事などの情報共有の場を作っている。	保護者のニーズに合わせてテーマを設定し交流の場を継続してつくっていく。
	専門職(作業療法士)を配置している。	作業療法士が、利用者の発達状況や特徴をアセスメントしている。	他の専門職を配置することで、利用者の状況を多面的に捉えることができる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
	福祉サービスの標準的な実施方法を文書化出来ていない。	新人スタッフ等が入ってきた時に、伝達できる物が準備されていない。	利用者さんと関わる時のポイントや気を付けることなどを文書化し、スムーズに支援に入れるようにサポートする。
	長期休みのイベント数が少ない。	スタッフの業務過多を考慮し、長期休みのイベント数を少なくしている。	・イベント以外の活動の種類を増やす。 ・休日のイベントを増やす。